

統合医療施設

気軽に訪れることができる漢方薬局 弁証論治法で症状・体質を見極める

富士堂漢方薬局(東京都千代田区)



西洋医学の薬はなんとなく敬遠してしまう人でも、“漢方薬”なら自然な感じがするので試してみたい、そう思っている患者は多くいる。しかし、一方で、「はっきりとした効果があるのかどうかかわからない」、「自分の体質に合う漢方薬をどうやって選べばよいのかかわからない」など、知識がなければ気軽に利用できるものでもない。

そんな患者に対し、ていねいな漢方相談と漢方薬の処方を行っているのが、東京都千代田区で富士堂漢方薬局を営んで3年になる許志泉先生である。許先生の漢方相談は、本格的な中国医学の知識に基づいた弁証論治（べんしょうろんち）法という手法を用い、症状を分析し、体質を見極め、原因を判断してゆくものだ。その結果から、それぞれの人にその時点でぴったり合った生薬の組み合わせ（方剤）を選ぶため、効果も得られる。漢方薬で効果を出すには、西洋医学の診断とは別に、こうした漢方相談が欠かせないと許先生は考える。たとえば、西洋医学の治療でなかなか思うような効果が出なかったり、「異常ありません」、「治す方法はありません」と言われたとしても、患者が症状を感じているのならそれは「病」であり、それに対して漢方では必ず何らかの「答え」があるというのだ。

許先生は、中国の南京中医薬学大学を卒業後、大学付属病院にて11年間臨床経験を積んだ。その後に来日し、順天堂大学、膠原病リウマチ内科にて研究に携わり、医学博士を取得した。すでに日本での漢方相談歴は11年に及び、日本人に特有の病気や症状に対する経験も豊富である。

●治療院では整体・針治療を施行

「薬局とは別に治療院が都内に2ヶ所ありますので、整体マッサージや針治療、そして漢方薬の処方というように、東洋医学を総合的に行うことができます」という許先生。一人の患者さんに対して、相談から治療まで、総合的に関わることができるのが大きな特徴といえる。

許先生が順天堂大学で膠原病やリウマチを研究したのは、こうした難病が現代社会に蔓延していたからだ。目や口腔内が乾燥するいわゆるドライアイやドライマウスに悩まされて目薬を使い、頻繁に水を飲むなどしている人はよくいるが、これらはシェーグレン症候群の症状でもあり、実は大きな区分では膠原病に属している。睡眠不足やストレス、食習慣、生活習慣など、何らかの原因で免疫系の働きが破綻し、炎症によって自分自身の身体の組織を壊す自己免疫疾患なのである。しかし、診断が難しい病気のため、それが病気とは知らずにいる潜在患者が増えており、診断が遅れるケースが多いと許先生は言う。

「西洋医学では、その炎症をステロイドや免疫抑制剤といった薬で治療して止めるようにしますが、それは病気の原因を解決するものではないので、病気の仕組みをもっと複雑にしてしまい、免疫のバランスは回復されません。そのため、症状がぶり返したり、別の症状が発生したりするのです。東洋医学では病気の原因を探して、それを根本から修正し、さらに患者さんにぴったりと合った漢方の生薬を処方していくので、解決ができるわけで

す」。

現在は合計 13 名いるという、鍼灸師、マッサージ師、薬剤師、国際中医師などのスタッフの教育にも熱心だ。いつもスタッフ全員の知識レベルが一定以上に保たれているように、お互いの知識を学びあい、皆の前で発表するというような研修を定期的に行っている。また、一般の人や医療の専門家が東洋医学の知識を深められるよう、日本東洋医学普及協会を運営し、講演会や勉強会なども開催している。

■富士堂漢方薬局

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-3-1

TEL : 03-6380-9964

FAX : 03-6380-9965

<http://www.kampo-fujidou.com>